



デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用

この章の内容は、次のとおりです。

- [デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルに関する情報, 1 ページ](#)
- [ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件, 3 ページ](#)
- [ディレクトリの操作, 3 ページ](#)
- [ファイルの使用, 7 ページ](#)
- [アーカイブファイルの操作, 13 ページ](#)
- [ファイルシステムの使用例, 16 ページ](#)
- [ファイルシステムパラメータのデフォルト設定, 20 ページ](#)
- [ファイルシステムに関する追加情報, 20 ページ](#)

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルに関する情報

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイルシステム

ローカルファイルシステムを指定するための構文は、`filesystem:[/modules/]` です。次の表に、デバイスで参照できるファイルシステムを示します。

表 1: ファイルシステムの構文の構成要素

ファイルシステム名	モジュール	説明
bootflash	sup-active sup-local	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルの保存に使用する、アクティブスーパーバイザモジュールにある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルトディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルの保存に使用する、スタンバイスーパーバイザモジュールにある内部 CompactFlash メモリ。
volatile	—	スーパーバイザモジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される、揮発性 RAM (VRAM)。
log	—	ログファイルの統計情報を保存するアクティブスーパーバイザにあるメモリ。
system	—	実行コンフィギュレーションファイルの保存に使用する、スーパーバイザモジュールにあるメモリ。
debug	—	デバッグログ用に使用するスーパーバイザモジュールのメモリ。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュメモリ (slot0:、usb1:、およびusb2:) には、ディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存用に使用できます。

ファイル

ブートフラッシュにファイルを作成し、アクセスします。 `volatile:`、`slot0:`、`usb1:`、および `usb2:` ファイルシステム。 `system:` システムファイルにあるファイルには、アクセスすることだけできます。 `debug logfile` コマンドで指定したデバッグログファイル用には、`debug:` ファイルシステムを使用できます。

FTP、Secure Copy (SCP)、Secure Shell FTP (SFTP)、および TFTP を使用して、リモートサーバからシステムイメージファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスが SCP サーバとして動作できるので、外部サーバからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルを使用するためにライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS のライセンススキームの詳細は、『 <i>Cisco NX-OS Licensing Guide</i> 』を参照してください。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する方法について説明します。

カレントディレクトリの識別

カレントディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

手順の概要

1. `pwd`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>pwd</p> <p>例： switch# pwd</p>	カレント ディレクトリの名前を表示します。

カレント ディレクトリの変更

ファイル システム操作でのカレント ディレクトリを変更できます。初期デフォルト ディレクトリは bootflash: です。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. **cd {directory | filesystem:[//module/] [directory]}**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>pwd</p> <p>例： switch# pwd</p>	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	<p>cd {directory filesystem:[//module/] [directory]}</p> <p>例： switch# cd slot0:</p>	新しいカレント ディレクトリに変更します。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

bootflash: ファイル システムおよびフラッシュ デバイスのファイル システム内にディレクトリを作成できます。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **cd** {*directory* | *filesystem*:*//module/*}[*directory*]
3. **mkdir** [*filesystem*:*//module/*]*directory*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例 : switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd { <i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i> }[<i>directory</i>] 例 : switch# cd slot0:	(任意) 新しいカレント ディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	mkdir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>directory</i> 例 : switch# mkdir test	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数は、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数には、大文字と小文字を区別して、最大 64 文字の英数字で値を指定します。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

手順の概要

1. **dir** [*directory* | *filesystem*:*//module/*][*directory*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [<i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i>][<i>directory</i>] 例 : switch# dir bootflash:test	ディレクトリの内容を表示します。デフォルトは現在の作業ディレクトリです。ファイルシステムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

デバイス上のファイル システムからディレクトリを削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除しようとする前に、そのディレクトリが空であることを確認してください。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [filesystem :[/module/][directory]]
3. **rmdir** [filesystem :[/module/]]directory

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例 : switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [filesystem :[/module/][directory]] 例 : switch# dir bootflash:test	(任意) カレント ディレクトリの内容を表示します。 ファイル システム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空でない場合は、そのディレクトリを削除する前にすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [filesystem :[/module/]]directory 例 : switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。 ファイル システムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

スタンバイ スーパーバイザ モジュール (リモート) のすべてのファイル システムに、アクティブ スーパーバイザ モジュールのセッションからアクセスできます。 この機能は、アクティブ スーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする際に、同様のファイルがスタンバイ スーパーバイザ モジュールにある必要がある場合に役立ちます。 スタンバイ スーパーバイザ モジュールのファイル システムにアクティブ スーパーバイザ モジュール セッションからアクセスするには、ファ

イルのパスで `filesystem://sup-remote/` または `filesystem://sup-standby/` のいずれかを使用してスタンバイ スーパーバイザ モジュールを指定する必要があります。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを操作する方法について説明します。

ファイルの移動

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動させることができます。



注意

宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

`move` コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

手順の概要

1. (任意) `pwd`
2. (任意) `dir [filesystem://module/][directory]`
3. `move [filesystem://module/][directory /] | directory/]source-filename { {filesystem://module/][directory /] | directory/}[target-filename] | target-filename}`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例 : switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [filesystem://module/][directory] 例 : switch# dir bootflash	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されません。
ステップ 3	move [filesystem://module/][directory /] directory/]source-filename { {filesystem://module/][directory /] directory/}[target-filename] target-filename}	ファイルを移動します。 ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。

	コマンドまたはアクション	目的
	例： switch# move test old_tests/test1	<i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数が指定されていない場合、ファイル名は、デフォルトで <i>source-filename</i> 引数の値になります。

ファイルのコピー

ファイルのコピーを同じディレクトリ内、または別のディレクトリのどちらにも作成できます。



(注) **dir** コマンドを使用して、コピー先のファイルシステムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [*filesystem*:*//module*][*directory*]
3. **copy** [*filesystem*:*//module*][*directory*] | *directory*]*source-filename* | {*filesystem*:*//module*}[*directory*]/ | *directory*}[*target-filename*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [<i>filesystem</i> : <i>//module</i>][<i>directory</i>] 例： switch# dir bootflash	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されず。
ステップ 3	copy [<i>filesystem</i> : <i>//module</i>][<i>directory</i>] <i>directory</i>] <i>source-filename</i> { <i>filesystem</i> : <i>//module</i> }[<i>directory</i>]/ <i>directory</i> }[<i>target-filename</i>]	ファイルをコピーします。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されず。 <i>source-filename</i> 引数には、大文字と小文字を区別して、最大 64 文字の英数字で値を指定します。 <i>target-filename</i> 引数

	コマンドまたはアクション	目的
	例： switch# move test old_tests/test1	が指定されていない場合、ファイル名は、デフォルトで <i>source-filename</i> 引数の値になります。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

手順の概要

1. (任意) **dir** [*filesystem*:[//*module*]/][*directory*]
2. **delete** {*filesystem*:[//*module*]/][*directory*/] | *directory*/}*filename*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [<i>filesystem</i> :[// <i>module</i>]/][<i>directory</i>] 例： switch# dir bootflash	(任意) カレント ディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	delete { <i>filesystem</i> :[// <i>module</i>]/][<i>directory</i> /] <i>directory</i> /} <i>filename</i> 例： switch# move test old_tests/test1	ファイルを削除します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数は、大文字と小文字が区別されます。 注意 ディレクトリを指定すると、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイルの内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

手順の概要

1. **show file** [*filesystem*:[//*module*]/][*directory*/]*filename*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> 例： switch# show file bootflash:test-results	ファイルの内容を表示します。

ファイル チェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするためのチェックサムを表示できます。

手順の概要

1. **show file** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*]*filename* {**cksum** | **md5sum**}

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> { cksum md5sum } 例： switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたはMD5チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮および圧縮解除

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して、Cisco NX-OS デバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

手順の概要

1. (任意) **dir** [*filesystem:[//module/]*]*directory*]
2. **gzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename*
3. **gunzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename* .gz

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [filesystem:[//module/]directory] 例： switch# dir bootflash:	(任意) カレント ディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename 例： switch# gzip show_tech	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、そのサフィックスは .gz になります。
ステップ 3	gunzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename .gz 例： switch# gunzip show_tech.gz	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィックスは .gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、そのサフィックスは .gz でなくなります。

ファイルの最後の行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

手順の概要

1. **tail** [filesystem:[//module/]][directory/]filename [lines]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tail [filesystem:[//module/]][directory/]filename [lines] 例： switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 行です。範囲は 0 ~ 80 行です。

show コマンドの出力のファイルへのリダイレクト

show コマンドの出力を、bootflash:、slot0:、volatile:、またはリモート サーバのファイルにリダイレクトできます。また、コマンドの出力形式も指定できます。

手順の概要

1. (任意) **terminal redirection-mode** {*ascii* | *zipped*}
2. *show-command* > [*filesystem:[//module/][directory]*] [*directory /*]*filename*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	terminal redirection-mode { <i>ascii</i> <i>zipped</i> } 例： switch# terminal redirection-mode zipped	(任意) ユーザセッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	<i>show-command</i> > [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] [<i>directory /</i>] <i>filename</i> 例： switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定の文字列で始まる名前のファイルを、現在の作業ディレクトリおよびサブディレクトリから検索できます。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **cd** {*filesystem:[//module/][directory]* | *directory*}
3. **find** *filename-prefix*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	cd { <i>filesystem</i> :[/module/][<i>directory</i>] <i>directory</i> } 例： switch# cd bootflash:test_scripts	(任意) デフォルト ディレクトリを変更します。
ステップ 3	find <i>filename-prefix</i> 例： switch# find bgp_script	指定したファイル名プレフィックスで始まる名前を持つすべてのファイルを、デフォルト ディレクトリとサブ ディレクトリから検索します。ファイル名プレフィックスは、大文字と小文字が区別されます。

アーカイブファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアは、アーカイブファイルをサポートしています。アーカイブファイルの作成、既存のアーカイブファイルへのファイルの追加、アーカイブファイルからのファイルの抽出、アーカイブファイル内のファイルの一覧表示ができます。

アーカイブファイルの作成

アーカイブファイルを作成し、それにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 非圧縮

デフォルトは gzip です。

手順の概要

1. **tar create** {*bootflash:* | *volatile:*}*archive-filename* [*absolute*] [*bz2-compress*] [*gz-compress*] [*remove*] [*uncompressed*] [*verbose*]*filename-list*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar create { <i>bootflash:</i> <i>volatile:</i> } <i>archive-filename</i> [<i>absolute</i>] [<i>bz2-compress</i>]	アーカイブファイルを作成し、それにファイルを追加します。ファイル名は、大文字と小文字が区別されない英数字であり、最大 240 文字です。

コマンドまたはアクション	目的
<p>[gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list</p>	<p>absolute キーワードは、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から先頭のバックスラッシュ文字 (\) を削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>bz2-compress、gz-compress、および uncompressed キーワードによって、アーカイブにファイルが追加される（または、後で追加される）ときに使用される圧縮ユーティリティと、それらのファイルを抽出するときに使用される圧縮解除ユーティリティが決定されます。アーカイブファイルの拡張子を指定しない場合、デフォルトは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bz2-compress の拡張子は .tar.bz2 です。 • gz-compress の拡張子は .tar.gz です。 • uncompressed の拡張子は .tar です。 <p>remove キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、アーカイブにファイルを追加した後にそれらのファイルをファイルシステムから削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、アーカイブに追加されたファイルを一覧表示することを指定します。デフォルトでは、追加されたファイルが一覧表示されます。</p>

次の例では、gzip で圧縮されたアーカイブファイルを作成する方法を示します。

```
switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file
```

アーカイブファイルへのファイルの追加

Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを追加できます。

はじめる前に

Cisco NX-OS デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. `tar append {bootflash: | volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar append {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list	<p>既存のアーカイブファイルにファイルを追加します。アーカイブファイルの名前は、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>absolute キーワードは、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から先頭のバックスラッシュ文字 (\) を削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>remove キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、アーカイブにファイルを追加した後にそれらのファイルをファイルシステムから削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、アーカイブに追加されたファイルを一覧表示することを指定します。デフォルトでは、追加されたファイルが一覧表示されます。</p>

次の例では、既存のアーカイブファイルにファイルを追加する方法を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブファイルからのファイルの抽出

Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを抽出できます。

はじめる前に

Cisco NX-OS デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. **tar extract** {bootflash: | volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: | volatile:}[/directory-name]] [verbose]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar extract {bootflash: volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]	<p>既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイルの名前は、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されたファイルの内容を端末画面に表示することを指定します。</p> <p>to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名には、大文字と小文字を区別して、最大 240 文字の英数字で値を指定します。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。</p>

次の例では、既存のアーカイブファイルからファイルを抽出する方法を示します。

```
switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz
```

アーカイブファイル内のファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブファイル内のファイルの名前を表示できます。

```
tar list {bootflash: | volatile:}archive-filename
```

アーカイブファイルの名前は、大文字と小文字が区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

ファイルシステムの使用例

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイルシステムを使用する例を示します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュールにあるファイルをリスト表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
 12198912   Aug 27 16:29:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mzg.1.3.0.39a.bin
  1864931   Apr 29 12:41:59 2003  dplug2
    12288   Apr 18 20:23:11 2003  lost+found/
 12097024   Nov 21 16:34:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mz.1.3.1.1.bin
  41574014   Nov 21 16:34:47 2003  m9500-sflek9-mz.1.3.1.1.bin

Usage for bootflash://sup-remote
 67747169 bytes used
116812447 bytes free
```

```
184559616 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュールにあるファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイスでファイルを移動する例を示します。

```
switch# move slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルトのファイル システムでファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、samplefile というファイルを、slot0: ファイルシステムのルートディレクトリから、mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、カレント ディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュから、スタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:system_image bootflash://sup-2/system_image
```

copy コマンドを使用して、slot0: または bootflash: ファイルシステムと、FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバとの間でファイルをアップロードおよびダウンロードすることもできます。

ディレクトリの削除

デバイス上のファイル システムからディレクトリを削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除しようとする前に、そのディレクトリが空であることを確認してください。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [filesystem :[/module/][directory]]
3. **rmdir** [filesystem :[/module/]]directory

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>pwd</p> <p>例： switch# pwd</p>	<p>(任意)</p> <p>現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。</p>
ステップ 2	<p>dir [filesystem :[/module/]][directory]</p> <p>例： switch# dir bootflash:test</p>	<p>(任意)</p> <p>カレント ディレクトリの内容を表示します。 ファイル システム、モジュール、およびディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>ディレクトリが空でない場合は、そのディレクトリを削除する前にすべてのファイルを削除する必要があります。</p>
ステップ 3	<p>rmdir [filesystem :[/module/]]directory</p> <p>例： switch# rmdir test</p>	<p>ディレクトリを削除します。 ファイル システムとディレクトリの名前は、大文字と小文字が区別されます。</p>

ファイルの内容の表示

次に、外部フラッシュ デバイスにあるファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file slot0:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

次に、カレント ディレクトリにあるファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイル チェックサムの表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮および圧縮解除

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを圧縮解除する例を示します。

```
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
```

show コマンドの出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイルシステムのファイルにリダイレクトする方法を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュメモリのファイルにリダイレクトする方法を示します。

```
switch# show interface > slot0:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバのファイルにリダイレクトする方法を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
 20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルトディレクトリからファイルを検索する方法を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg
```

```

/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied
./smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg

```

ファイルシステムパラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイルシステムパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: ファイルシステムのデフォルト設定

パラメータ	デフォルト
デフォルトのファイルシステム	bootflash:

ファイルシステムに関する追加情報

ここでは、ファイルシステムに関するその他の情報について説明します。

ファイルシステムの関連資料

関連項目	参照先
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』
コマンドリファレンス	『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Fundamentals Command Reference』 『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Command Reference』